

東濃信金本店で 強盗想定し訓練

多治見市本町の東濃信用金庫本店で14日、強盗事件を想定した防犯訓練が行われ、職員が万が一の事態に備えて対応を確認した。

訓練はお金の出し入れが多くなる年末年始を前に毎年実施しており、新本店ビルの開業後初となった。同信用金庫支店の支店長や職員ら合わせて約30人が参加した。

強盗役の多治見署員2人が模擬拳銃と刃物をそれぞれ持ち、来店客役の職員1人を人質に取った。「全員

模擬拳銃を掲げて職員を脅す強盗役の警察官＝多治見本町、東濃信用金庫本店



後ろを向け」と叫び「金を入れろ。命はないぞ」などと脅し、袋を奪って逃走した。複数の職員が気付かないように非常通報ボタンを押した。

参加者は犯人役の服装や持ち物などをメモした。訓練後、同署の林武彦生活安全総務係長は「何がどこで起きてもおかしくない。平

穏な地域だと安心せず備えてほしい」と呼びかけた。

訓練は土岐、可児市、愛知県春日井市の支店でも実施する。
(稲木悠司)